

新社会人の
ABC

断る時はきっぱりと

会社の都合や自分の立場により、取引先の提案を断らなくてはならない場面も出てくる。企業研修を幅広く手がけるヒューマンディスカバリーの尾形圭子社長は「言いづらくてもきっぱりと断るのが、相手に余計な時間を使わず、むしろ親切。クッション言葉を使い、相手の気持ちを傷さないようにしたい」と助言する。

「ご提案ありがとうございます」と、まずはお礼。そして「大変申し訳ありませんが」「あいにくですが」とクッション言葉を前置きして断る。その際、「既に決まっております」「ありがたい話ですが、この条件では……」と、理由を可能な限り具体的に言うこと。理由を言わないと、相手に無用な不安を与える恐



れがある。

「検討します」と回答を先延ばしにするのはNGだ。期待を抱かせ、無駄な仕事をさせることもある。会食の誘いを断る時は、「できれば行きたい」という気持ちを込めたい。こちらの理由は「動かせない先約がある」で十分。最後に「また誘ってください」「次は必ず」と次回への期待を忘れずに伝えよう。

「どんな断り方をされると自分はいやかを考えよう。その際、互いに会社を背負っていることを忘れずに」と尾形さんは話す。
(服)

(2023年10月2日読売新聞朝刊全国版)